

君津市国際交流協会 会報

No. 5

— Kimitsu International Exchange Society (KIES) —

1997年9月発行

〔発行〕KIES 〔編集〕総務広報委員会
〒299-11 君津市久保2-11-21 Tel.(54)9877

郵便物やFAXは下記へ
君津市企画部国際交流室
〒299-11 君津市久保 2-13-1
FAX (56) 1628 TEL (56) 1265



“君津市民ふれあい祭り”で国際交流



名誉会長（市長）や中国房山区の君津訪問団も一緒になって踊った記念写真。美男美女ぞろいです。



協会のブラカードをもったイベットさん、楽しい思い出の一夜となりました。

8月3日(日)君津市民ふれあい祭りが開かれ、参加した文化交流委員会の粉純子さんが、感想を寄せてくれました。



粉 純子

星空の下で楽しく

“君津音頭でいやさかさっさー”という歌もすっかりお慣じみとなった君津ふるさと祭りも今年で2年目。

国際交流協会としても去年に引き続き踊り手として参加することとなりました。私は、と言えば君津生まれの君津育ちではありますが、何故か今まで地元のお祭りとは縁遠く、いやさか祭りから数えても、一度しか足を運んだことがなく、それも遠くから見ていた

だけ……。

ところが、今年から協会のメンバーとなり、この夏は協会の連で踊り手として参加することになりました。

今年から歌と踊りの振りが変わるといことで、事前の練習にも参加して本番に備えました。当日事務所で赤、緑、黄色のカラフルなハッピを渡され、初めは少し照れ臭い気もしましたが、ねじりはちまきを締めれば、すっかりお祭り気分です。

総勢約40名。レオタードやドレスなど趣向を凝らした衣装の他の連と並んで、私たちのカラフルなハッピも夏空の下でとても良く映えていました。

スタートの合図とともに始まった踊りも、初めは少しぎこちなかったのですが、だんだんとさまになって来ました。途中から、訪日されていた北京市房山区の方も、私たちとお揃いのハッピを着て参加され、一緒に踊りました。

もちろん連には会員の外国人の方も参加してお祭りを盛り上げました。

“子供からお年寄りまで、国籍性別を問わず楽しめる”これがお祭りの良さであり、このことは国際交流協会に参加する上で忘れてはならないことなんだ、と今回参加して改めて実感しました。

北京市から友好訪問団

8月3日から7日 各所で交流を深める

5名の視察団で訪君

君津市の姉妹都市候補の一つとして、当協会都市交流委員会で選定していた中国北京市房山区の友好訪問団が、昨年8月下旬に君津市及び協会会員で調査を兼ねた第1回訪問交流の答礼表敬を兼ねて、8月3日から7日までの間、君津市を初訪問した。

訪問団は以下の5名の方々。

- ・李 碩夫（房山区副区長）：団長
- ・陳 蘭英（房山区外事弁交室主任）（女性）
- ・曹 鴻雲（房山区文教工業委員会書記）
- ・張 宝山（房山区工業経済委員会主任）
- ・張 静（北京市経済委員会日本事務所代表）（女性：通訳）

張静さんは君津市と北京市房山区との仲介を、昨年からの積極的に協力推進してくれた方。

成田空港に一行を出迎えたのは君津市国際交流室3名（企画部長、室長、副主査）、協会3名（事務局長、事務局次長、都市交流委員長）帰りのバスの中で昨年訪中した坂元副主査と榎沢事務局次長は、李団長と陳女史と旧交をあたためていた。

ふれあい祭りに出場

8月3日はタイミングも良く「君津市民ふれあい祭り」開催中であり、市民との交流にも絶好の機会であった。

夕方ホテル千成についた訪問団は旅装を解く間もなく17時から同ホテルで君津市国際交流協会の前田会長の歓迎挨拶を受け、夕食後直ちに君津駅前で開催されている「ふれあい祭り」会場へ足を運び、若月市長及びふれあい祭り実行委員会の配慮によって市民の皆さんへ紹介された。

その後は協会参加連に加わって一緒

に踊ったりして、休む間もない交流を図り、21時半ホテルに帰着。翌日からの視察に備えて第1夜を明かした。

8月4日(月)の午前中は新日鐵の君津製鐵所を訪問、迎賓館にて同所木内総務部長、木村センター長他の歓迎を受けた後、同所紹介のビデオ（中国語）を見た。見学バスに乗り、冷延・熱延工場などを見学した。原料岸壁では中国からの石炭輸出があるか否かの質問などがあつた。

酷暑の中での見学は相当にきつかったにも拘わらず、熱心に全員が視察したのが印象的であった。

経済団体などとの交流

午後は「きみつふるさと物産館」を訪れたが同館の運営方法等について色々質疑応答がされた。続いて八重原公民館のお茶室「九十九坊」にて日本の伝統茶道を体験し、その後君津商工会議所を表敬訪問して、会頭以下関係者と懇談。ホテル千成では君津市主催の歓迎レセプションに出席した。若月市長、議会代表（若鍋静江副議長）、鎌田協会副会長の歓迎挨拶、収入役の乾杯音頭があつた。

市長からは平等互惠の精神で交流し、相互理解を深めたい。又房山区が農業技術に関心が深い点に触れ、これからの無農薬作物研究が大切なこと、君津の鶏と房山区の鶏の合作案などが語られた。

李副区長からは君津市の招請に対する謝辞と、君津市の農業・経済を学ぶと共に、市民との友情を深めたいとの挨拶があつた。途中琴の演奏と日本舞踊の披露があり、訪問団の皆さんは日本の伝統文化に触れ、一時疲れを忘れた感じであった。



上：サンピア君津での意見交換会
正面の5人が訪問団

下：市主催の歓迎会で李団長が挨拶



8月5日(火)は東京見学を実施した。

君津駅を午前8時に出発、東京駅10時発のはとバス半日都内観光に乗り。コースは皇居・国会議事堂・明治神宮・東京タワー・六本木・銀座・東京駅で、午後2時から秋葉原の電気街を訪れ免税店で買物をした。ハードスケジュールの中で訪問団のプライベートタイムになった。

夕方君津に戻り、宿舍サンピア君津に移動する前に協会の中国語教室を参観、教室の皆さんと交流を深めた。李副区長から語学を通して交流しましょうと励ましのメッセージをいただいた。

農業関係で質疑応答

8月6日(水)は実地見学と意見交換会が行われた。午前中はバラ栽培農家（溝口農園）、サラダ菜栽培農家（レイクファーム）、農協のライスセンター、を実地視察した。

午後は柿園（栗原農園）視察後サンピア会議室において、農協、千葉県君津農業改良普及センター、花卉園芸組合及び商工会議所等の実務者クラスの代表と実際問題について質疑応答、意見交換を行った。その中で特に李団長は農業技術改良に関心があるので、柿園

での日本の甘柿栽培に注目、技術指導を求めている。会議終了後、李団長から房山区への各種団体や協会の訪問団を歓迎したいとの、主旨が表明された。

この日の夜は協会主催の歓送会がサンピア君津で開催され、市、議会等来賓を含めて参加者総数は46名で、李団長以下5名の訪問団の成果と無事帰国及び今後の親善交流を深めることを相互確認し合った。

最後に全員輪になって「北国の春」を合唱し、初めての出会いとは思われない様な友情あふれる親善交流となった。

昨年の中調査が房山区との交流の第一歩とすれば今回は第二歩さらに三歩を進めた交流を相互確認したと言える。

市役所を表敬訪問

8月7日(木)帰国を目前にして李団長以下の訪問団は市役所を表敬訪問した。若月市長、竹内助役、大曾根企画部長他の出迎えを受け、房山区より君津市に贈呈された掛軸を前に歓談、李団長は君津市の熱烈歓迎と周到的な視察見学

に対する配慮に謝辞を述べ、帰国後は区長に成果を適確に報告する旨の挨拶をし、君津市長にも是非房山区を訪問して貰いたい旨の要請をした。

市長は短時日で大変なスケジュールであったと思われるが、君津市のこと

を少しでも理解したことが、今後の親善交流には大切であり、末永く友情を築いて行きたいと挨拶した。

その後バスにて成田空港へ直行し、出国手続きを終えて後、出国入口で「再見」の挨拶を交わし、お別れした。

訪問団の期待していること (意見交換会にて)

- ★房山区は高速道路も発達し、観光に力を入れている。是非来てください。
- ★農業交流、教育交流(学生、生徒、先生)をしましょう。
- ★石炭や大理石などの資源が豊富。その加工産業の将来の発展が見込まれている。
- ★トウモロコシを原料とした薬品や、澱粉などに加工するなど、共同で市場開発したい。
- ★北京市には野菜のモデルハウス(試験場)があるが、房山区にはない。試験場を建設し、新種の開発・研究を手助けして欲しい。
- ★キウイのワイン化などを含め相互に交流・検討したい。

★技術指導をお願いしたい。特に君津市の柿について勉強したいので、技術者の派遣あるいは研修生の受け入れをお願いしたい。

★農協の組織について勉強した。日本の農協の組織は大変素晴らしい。農協の調査団を房山区に派遣していただき、お互いに何ができるか検討して行きたい。

★房山区は建築や石材素材、食品加工業が盛ん。キウイの保存技術やキウイワインの作り方などを勉強したい。北京へ出荷する花を作りたい。

★房山区には小中学生合わせて1万3千人がいる。まずは、子供の交流から初めて教師相互の交流を始めたい。小中学校それぞれ1校ずつ姉妹校を提携したい。

房山区は こんな所です

自然状況(地理・人口・気候)

北京市の10区8県の中の郊外区
中心区4区、郊外区14区县
面積: 2019km² 人口: 76万人
気温: 10~11℃(年平均)
降雨量: 650mm(年平均)

行政

中国政権: 省、県、郷で構成
北京市: 直轄市
房山区: 市轄区のため人民政府あり

名所旧跡

北京原人遺跡(区内周口店竜骨山)
雲居寺: 仏舎利、石刻經典
十渡: 北の桂林と言われる景観
石花洞: 4大鍾乳洞の一つ

交通

高速道路: 京石高速道路、京津塘高速道路(北京市中心部から1時間)
鉄道: 京原鉄道、京広鉄道、良沱鉄

道。良郷空港(現在軍用)

産業

- ①燕山東流水工業開発区
11の企業、約400人が働く。
- ②良郷工業開発区
15の企業と6国内連合企業あり。
- ③区内に大理石、レンガ、石炭、セメントの工場あり。
- ④農村部は北京市の食料基地。
産物: とうもろこし、野菜、米、麦
キウイフルーツ、柿、杏、栗。

教育

小学校374 中学校44 高校13 大学3 専門学校6(小学校1クラス40人 中学校1クラス45人)
韓村河村: 建設業~大型機械化で資産を増し、教育施設の充実、老人ホームの新築で福祉も充実。

文化・体育

卓球、気功、太極拳に人気
カラオケ、ダンスも一般化

医療・研究所

区級病院3 郷鎮級衛生医院28

北京市



農業関係: 農業科学研究所、農業機械研究所、キウイ研究センター

医療関係: 予防研究センター、心血管病研究所、肝胆襄結石研究所

生活

服装は簡素、治安良好、女性社会進出も進む。

食事: 主食は麺類、饅頭、パン、お粥。副食は漬物、惣菜、豆腐、肉料理、魚料理。住宅: 大半がアパート、農村部でもレンガ造りの1戸建からアパート風建築に変化中。

知っていますか? 中国



殷 蓮玉さん

「もっと中国を知ろう」と都市交流委員会が、7月19日13時半から16時まで、君津市民体育館視聴覚室でミニセミナーを開きました。

講師は日中友好会館の経済交流部長の殷蓮玉さん。大連市出身で北京外国語大学卒、日中友好協会理事を経て現職。職場の上司と部下は日本人で、日本と中国の違いを実体験中。

日中友好会館(会長・後藤田正晴)は日中両国の政府関連事業として両国の文化交流を進めている。

改革開放が始まった

日本のマスコミには中国のニュースが毎日出ています。日中関係がいかに深いか、そして日本の人が中国に大きな関心をもっているかがわかります。

1949年、毛沢東さんは新中国を建設しました。その後を鄧小平さんが、そして3代目の指導者に江沢民さんがなりました。毛沢東さん、周恩来さんが亡くなられたとき、中国は将来どうなるかという暗い気持ちと不安がありました。しかし鄧小平さんのときは不安や動揺はありませんでした。それは将来の方向に安心感があるからです。

江沢民さんの中国になってどうなるか。今年の中国の2大イベントは、香港返還と秋の中国共産党第15回大会です。香港返還は終わりましたが、党大会はこれからで、ここで経済政策や人事が決定されます。皆、関心をもっています。

全体的には改革開放路線の方向は決定的で、逆戻りするのとは不可能になりました。この路線は1978年から始まり、3段階を経ました。

まず農村の改革から

第1段階は1978年から1984年までで農村の改革です。弊害が大きくなった農村の人民公社を、全部解体しました。そして農地の使用権を15年から50年にのばし、農業税を払うだけで、作物の生産、売買を自由にしました。農民の生産意欲は高まり、天候にも恵まれて1995年から2年間豊作となりました。

中国は食糧をどう解決するかが一番問題です。中国の人口は12億。3億が都市部で9億が農村人口です。中国は国土は広いのですが、砂漠や黄土地帯など不毛の地も広く、農耕地はわずか7%です。これで世界の人口の22%を養っているのです。食糧輸入は5%ぐらいです。それ以上増やすと、世界市場に混乱を起こします。中国の人口は、2010年までのピークに17億になるといわれますが、私は一人っ子政策の浸透で14~15億と推測しています。食糧問題に取組む中国の姿勢は、世界に対する大きな貢献だと思います。

さらに都市部の改革

第2段階は1984年から1992年までです。改革は農村から都市部に移りました。まず政府機能の改革です。国営企業を国有企業に変えました。経営権を国から社長とか企業に任せました。さらに証券市場や食糧の交易市场などを始めました。

第3段階は1992年から2000年までです。改革開放路線で経済は2ケタの高度成長が続きました。過熱状態でどう押さえるか苦労しています。理想的な経済成長率は8%くらいで、昨年やっと9%台の1ケタに押さえました。今年も10%以下に押さえるのが重要な課題です。

経済成長をみた中国

1970年代の中国の3種の神器は時計、自転車、ミシンでした。1980年代ではクーラー、パソコン、電話といわれた

り、住宅、乗用車、携帯通信手段といわれたりしています。

収入では1996年で、1番高いのは金融保険業です。最近、保険会社ができて年収1万円ぐらいです。2番目が化学研究部門で8千元台、3番目は交通郵便部門でやはり8千元台です。一番貧乏の生活ラインは、北京市では月に250元ぐらいで楽はできないが食べていけます。10年前と比べて豊かになりました。改革開放路線の流れは、江沢民さんが変わっても変わらないという安心感があります。

両国の違いの認識を

日本では女の子がお茶くみをしていますが、中国では男の子でもやります。買物にも行き、料理もします。言葉は英語と同じYes、Noとははっきりしている。日本語はあいまいです。

献血は日本人は抵抗感がありませんが、中国人はあります。職場で献血にいった人は1週間休みます。1ヵ月分の補助金も出ます。これに対し日本の現地企業の社長さんは「とんでもない」と理解しがたいようです。

深めたい青少年交流

今年は日中国交正常化25周年です。友好は深まりましたが、尖閣列島、靖国神社、教科書など問題も出てきました。中国でのあるアンケート調査で、35歳以下の人たちの78%が日本に対して不信感をもっていました。日本はドイツに比べて明確な態度がない、侵略の認識が甘いと感じています。一方、日本の若い人は中国に対し、密入国とか殺人事件とかで不信感があります。

国交正常化の時に言ったように「子々孫々までの友好」をどうやって深めていくか。私たち世代のバトンタッチの役割が大事だと思っています。私は青少年の交流を、大いにやるべきだと思います。ときどきケンカをしますが、そのたびに相手がよくわかり仲の良さが深まる——そんな友好交流ができるのではないのでしょうか。

(講演はすべて日本語。総務広報委員会でまとめました。)